

「新学年はいつから？」指導資料

【題材の概要】

各国の新学年が始まる時期を理解しながら、いろいろな国の教育に興味をもたせていく活動である。多くの児童は、日本以外の国の新学年の始まる時期を知らないことが予想される。そこで、アメリカの小学校の入学初日の様子を写真で見せ、世界で最も多いとされる「9月始まり」の例を紹介する。その際、入学初日が、日本のように「儀式」でないことを伝えるとともに、写っている子どもや保護者の服装から、入学の時期が夏休み明けの9月であることを説明する。その後、児童は、世界各国の新学年が始まる時期に興味を持ちながら、コミュニケーション活動に取り組んでいく。その中で、各国の新学年の始まる月を記したカードを用いながら、「When does school start?」、「In September.」を言語材料とした会話に取り組む。ここでは、12カ月を英語で言い表すことにも挑戦する。最後に、児童の発表や教師の話から、いろいろな国の学校の仕組みなど、新学年が始まる時期以外の点についてもふれる。

なお、新学年が始まる時期については、【題材内容との関連事項】に示したように、世界的には「9月始まり」が多いものの、国によって様々である。そこで本時では、児童の負担を考え、扱う月を February, March, April, September の4つとした。

【国際理解との関わり】

多くの児童は、日本の学校が4月に新年度を迎えることは知っているものの、外国の学校については十分な知識がないものと思われる。あるいは、世界中の全て国で同じ時期に新学年を迎えていることも予想される。そこで、新学年が始まる時期として世界で最も多いとされる「9月始まり」の例を紹介しながら、各国の新学年が始まる時期を理解させる。

また、南半球の国では12月から1月にかけて夏休みがあり、その後で新学年を迎える学校が多い。オーストラリアやブラジルの例を取り上げながら、北半球と南半球との違いにも目を向けさせていきたい。さらに、スウェーデンやニュージーランドなど各自の誕生日に入学する国の例も取り上げ、各国の入学の時期や就学制度が多様であることを伝える。

他にも、学校の仕組みなど新学年が始まる時期以外の点にもふれ、世界各国の教育に目を向けさせていく機会とする。

【各教科等との関連】

社会科・・・

理 科・・・北半球と南半球

【題材内容との関連事項】*学校の実態に応じて活用してください。

<各国の新年度を迎える時期(一応の目安)>

(1月)シンガポール

(1月下旬~2月上旬)オーストラリア

(2月)ブラジル

(3月)アフガニスタン、韓国、アルゼンチン

(4月)日本、インドネシア、ペルー

(5月)タイ

(6月)フィリピン

(8月)ハワイ

(9月)アメリカ、イギリス、ドイツ、アイルランド、サウジアラビア、カナダ、カザフスタン、中国、イタリア、スペイン、フランス、オランダ、エジプト、香港、トルコ、メキシコ

(10月)ナイジェリア、カンボジア

*ドイツでは新学年の始まる時期が地方によって異なり、「8月始まり」の学校もある。

【本題材に関連した英語表現】

「新学年」を意味する英語表現については、a new school year が一般的であるが、児童への負担を考慮し、本時では school の一語で言い表すものとした。また、答え方についても正式には、It starts (begins) in September. の言い方が求められるが、同様の理由から In September で答えさせることとした。

【日本がなぜ「四月始まり」なのか】

明治時代に学校の制度が始まった時は、日本の学校も「9月始まり」だったが、途中から「4月始まり」に変更された。変更の理由として、主に次の二つが考えられる。

当時、日本軍は若くて優秀な人材をいち早く確保しようとして、新兵募集を4月に行っていた。そこで、「9月始まり」の学校は、新入学の時期を迎える前に優秀な人材が軍隊に入隊していくことを防ぐため、軍隊の入隊の時期に合わせて、「4月入学」に変更した。

当時から日本の国（行政）の会計年度が、新年度の起点を4月としていたため、国からの多額の補助金を必要とする学校は、国の会計処理の都合に合わせる必要があった。そのため、学校も国に合わせて4月始まり、つまり「4月入学」に変更した。

【多くの国で「9月始まり」が多いのはなぜか】

このことについては定かではないが、一説によると中世イギリスの大学制度になったことが考えられる。当時の大学では、入学してすぐに農家に行き、農作物の収穫を手伝うという慣習があった。そのため、農作物の収穫の時期に合わせて新入生の入学が行われていたとする説がある。